

阿室校区活性化対策委員会（宇検村）

結いのこころ。地域全体で協働！人々が住みやすい村へ



阿室小中学校

地区概要

阿室校区は、奄美大島の南西部にある宇検村の西端に位置する。平田、阿室、屋鈍の3集落で構成され、農業、漁業の従事者が多い。村外への進学、就職が多く、人口減少が急激に進んでいる。

コミプラ設立の経緯

少子高齢化や小学校の閉校の可能性があることを受け、「何とかして学校を残したい」、「子

どもの声が聞こえなくなるのは寂しい」という住民の思いから、3集落で話し合いを重ね、全住民の意向調査を経て平成21年に「阿室校区活性化対策委員会」を設立した。

委員会の中では山村留学班（児童募集、住宅確保、就職情報提供等）、企画班（交流イベントの企画等）、農業班（農業生産、商品開発等）に分かれて、それぞれの活動を行っている。

特徴的な活動

① アットホームな雰囲気「親子山村留学制度」

「親子山村留学制度」は“親子そろって”移住してもらい、自然や地域の人々とふれあいながら様々な経験をすることができる制度で、親子で安心して生活できるよう“地域ぐるみ”で支援している。これまでに、九州、関西、関東、北海道など様々な地域から移住者が集まっており、保護者は、役場職員、介護施設、養殖関係、就農、起業などにより就業している。

この制度によりI・Uターンを中心に移住者が増加したことで学校の休校が回避されたほか、移住者が農水産業や地域活動の重要な担い手となっている。



山村留学の子どもたち

② 農林水産大臣賞と天皇杯を受賞！地元民と移住者のむらづくり

I・Uターン者が増加したことで、新たな担い手による農業振興が行われている。タンカン産地では、高齢化や鳥獣被害で放置された畑が増えていたが、高齢者にとって大変な防除作業を、移住者を中心に結成された「タンカン防除班」に任せることで、タンカン産地の再生や移住者の就農支援につなげている。

また、移住者を中心となって、途絶えかけていた在来ニンニクの生産を拡大。地域の特産品として販売されるようになったことで、在来ニンニクが復活し、地域全体の所得向上にも繋がった。

さらに、女性Iターン者を中心となって合同会社を設立し、地域の農林水産物を活かした加工品や工芸品の製作に取り組んでいる。

これらの取り組みが評価され、平成29年度の豊かなむらづくり全国表彰事業において農林水産大臣賞を、農林水産祭のむらづくり部門において天皇杯を受賞した。



天皇杯受賞（第56回農林水産祭）

今後の展望（コミプラの声）

コロナの影響等により、今までやってきたことができていない状況にある。小規模企画提案に対する助成支援を利用することで少しずつ動いていき、活動しやすくなればと考えている。また、農林水産物の生産拡大や加工品の開発による農水産業の振興、農産物の集荷などの経済対策、高齢者の見守り活動などの福祉面による対策を行い、ここに住んで良かったと実感できるむらづくりを引き続き行っていきたい。

宇検村から一言

阿室校区は、子どもの人数を増やそうということから派生して、独自の取り組みで幅広い活動を行っており、良い地域づくりができていく地区です。地域外の人が増えることに対して不安もありましたが、地域全体で地元の人を受け入れている印象があり、コミュニティが上手く形成されています。今後も、助成等を行うことで、活動をしやすいように支援していきたいと考えています。

利用した補助金など

- ・地域貢献サポート事業助成金（県）（R元年度）



阿室小中学校公式ブログ
「阿室っ子日記」

Passion

**移住者の受け入れにあたっては
地元民の協力と移住者の理解を得るべし！**